

## 自動車は生産、住宅着工戸数は持家、賃家が増加 販売とも大幅減、住宅着工戸数は持家、賃家が増加

アルミ本橋本健一郎氏リポート①



横本健一郎氏

### ■国内概況

十月前半は米連邦準備制度理事会(FRB)による量的緩和措置縮小が十一月にも決定されるものではな

いかとの見方で、中国の電力不足による冬場の稼働低下に伴う需要不安などのマイナス材料もあったが、米株式市場は米債務上限引き上げ問題に関して、十一月初までの暫定的な引き上げで合意したと伝えたれたこと、「世界的なエネルギーコスト高による供給不足を好んでLMERを相場はJP、十月十五日時点で九丸一ドル(ゼットル)と月初値より九二〇ドルJPの高め。

後半は世界的なエネルギーコスト高による供給ひつ迫感などのプラス材料もあったが、これまでの上昇で高騰警戒感が薄まつたことに加え、中国の第3四半期の国内総生産(GDP)の鈍化、燃料価格抑制策を実施したことによるLMER相場はDOWN、十月末日現在後半スター価格がら六〇〇ドルDOWNの九九五ドル。十一月スタート期間は一七五円。

### ■前月の経済指標

◆月間のドル／円レート (TTS)

一一一・四三一～一四六七(円)。

◆自動車生産台数

生産動態統計によると、九月の自動車生産台数は前年比四九七%減の三九万八〇七五台。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、十月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・二%減の一七万六・七四三台。

◆住宅着工戸数

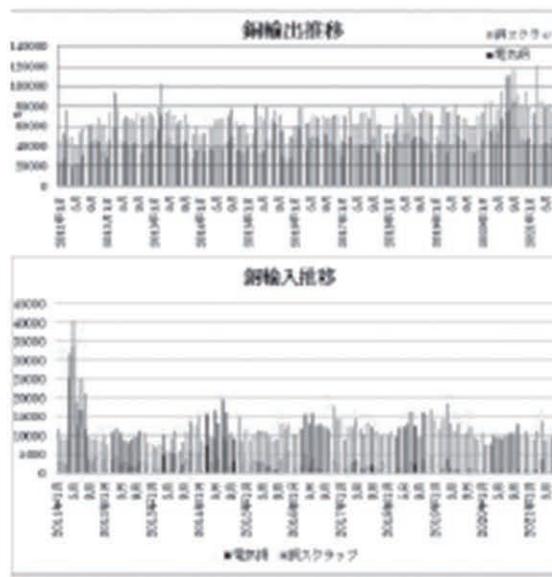
九月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び賃貸が増加したため、全体で前年同月比四・三%の増加となつた。また、季節調整済年率換算値では前月比一・一%の減少となつた。

新設住宅着工戸数は七万三・一七八戸。前年同月比四・三%増、七カ月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六・〇一一千m<sup>2</sup>。前年同月比三・一%増、六カ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八四万五千戸。前月比一・一%減、二カ月連続の減少。

## 銅輸入はスクラップが減少



### ◆貿易動向指標

輸出 財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気鋼が四・一%減の四万九・三五一t、スクラップが一〇・五%減の二万七・四六〇t。

輸入 輸入は電気鋼が前年比一〇・一%増の五五〇t、スクラップが四六・九減の九・四五t。

### ■前月の国内指標

日本伸銅協会が公表した一〇二一年九月伸銅品生産動向速報によると、九月伸銅品生産量は前年比一七・五%増加の二万四・六一〇トン、前年同月比一八・七%増加した。またコロナ前一〇一九年同月と比較しても五・三%増加した。好調を維持している。

日本電線工業会発の出荷速報(推定)によると、前年比〇・三%増の五万一・一〇〇t。

### ■国内概況まとめ

【自動車生産】 生産動態統計によると、九月の自動車生産台数は前年比四九七%減の三九万八〇七五台。

【自動車販売】 日本自動車販売協会連合会によると、十月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・二%減の一七万六・七四三台。

このうち乗用車三一・〇%減、貨物

一八・二%減、バス四・四%増。(六圖へ続く)

## LME銅、今月も中国の燃料炭価格抑制策の動向などが左右か

(四国より続く)

【住宅着工戸数】

九月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び賃貸が増加したため、全体で前年同月比四・三%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比一二%の減少となつた。

新設住宅着工戸数は七万三、一七八戸。前年同月比四・三%増、七月月連続の増加。

新設住宅着工床面積は六、〇一一千m<sup>2</sup>。前年同月比三・二%増、六ヶ月連続の増加。

季節調整済年率換算値では八四万五千戸。

前月比一二%減、一ヶ月連続の減少。

【伸縮品生産】

日本伸縮協会が公表した二〇二一年九月伸縮品生産動向速報によると、九月伸縮品生産量は前月比一七・五%増加の六万四、六一〇トン、前年同月比一八・七%増加した。またコロナ前二〇一九年同月と比較しても五・三%増加した。好調を継続している。

品種別では、伸縮品は前年比一二カ月連続のプラス。九月としては、二〇〇八年に次ぐ一番目の高い値。引き続き車載、デジタル家電用の半導体向けが好調である。自動車端子向けも、自動車生産挽回に向けて、在庫積み増しの生産が続いている。自動車生産台数以上に自動車端子向け伸縮品生産が伸びている。

【電線出荷】

日本電線工業会発の出荷速報(推定)によると、前年比〇・三%増の五万一、一〇〇t。このうち国内〇・一%減、輸出が一七・六%増。

【輸出】

電気機器輸出が四・三%減の四万九、三五一t。鋼スクラップが一〇・五%減の万七、四六〇t。

【輸入】

電気機器が一〇・一%増の五五〇t。スクラップが四・六%減の九、四五五t。

【目次】

・九月の自動車生産が四九・七%減。十月

国内販売台数が前年比三〇・二%減。

前月に続く生産、販売共に急減少。半導体

以外の中国からの部品供給の遅れからとの

事。今後に注視。

・九月伸縮品生産量は前年同月比一八・七%増加した。前月に続き増一またコロナ前二〇一九年同月と比較しても五・三%増加し

た。好調を継続している。

自動車生産の遅れの影響がないか今後に注目。

・日本電線工業会発の出荷速報(推定)によると、前年比〇・三%増の五万一、一〇〇t。

このうち国内〇・一%減、輸出が一七・六%増。

輸出は増加率が大幅増加。国内が回復するか注視。

・鋼輸出は、電気機器、スクラップとともに内需旺盛に伴い減少。

・鋼輸入は、電気機器が内需旺盛から増加、スクラップは世界的な原料不足から減少。

【スクラップ(現況予想)】

前月に続き流通(一次問屋)在庫は鋼建値が一〇四万円から一時一二四万円まで急騰した(翌日一二五万円まで下落)ことから出物が無く在庫薄。

仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多く、定期で入らないメーカーでは高値買入の傾向があるが、挽回生産に向か在庫積み上げから需要は旺盛。

中国の商品供給の遅れからの自動車生産の大幅減少傾向があるが、挽回生産に向けて在庫積み上げから需要は旺盛。

【LME・為替予想】

① 今月は

② 燃料炭価格抑制策の動向

③ 中国不動産大手・恒大集団の経営不安問題

に左右される

① に関しては、中国雲南省全体は電解アルミニウム業界への実施中及び実施予定の優遇電気料金政策を取り消すなど、強硬措置を続けており、工業用金属の需要減退懸念は引き続き今月も行われるのではないか。

② に関しては

ドル建て債の利払いを行うなど立て直す意思はあるようだが、中国国家統計局が発表した十月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は四九・二と市場予想(四九・七)に反して前月の四九・六から低下した。五〇を一カ月連続で下回った。

ことなどから、予断はゆるさぬ状況。

これらを踏まえた十一月の鋼価格は八、五〇一一万〇、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一一〇円一一五円(TTM)台を予測。鋼建値に関しては九八万一一九万円程度と予測している。